

教員として、この五ヶ月を振り返って

豊嶋 文香

四月にこの小樽桜陽高校に赴任し、教員として、社会人としての生活をスタートしてからはや五か月がたとうとしていきます。今回の桜陽高校だよりの記事を書かせていただくにあたり、この五か月に振り返り、一番初めに考えたことは、「初心を忘れず、自分の理想に近づけているか？」というものでした。およそ一年前、私は教員採用試験の面接で自分の理想とする教師像を聞かれ、こう答えました。

「生徒が信頼し自分もこんな人になりたいと思われ、生徒が自分の成長を実感できる指導のできる教師」

この五か月間を振り返りました。生徒は自分

を信頼しているか？生徒の手下となれているか？自分の指導を通して生徒は成長を実感しているか？



◆着任式◆

なかなか思いえがいたとおりにはならない、難しいな、というのが正直な今の感想です。五か月たった今もなかなか仕事に慣れず、常に「これで大丈夫なのか」と不安で、周りのベテランの先生方と話をするにも緊張することがあるくらい自分のことで手一杯なの

が現状です。しかし、こんな未熟な私でも、学校という場ではいろいろな経験を積んだベテランの先生方と同じ一人の教師として扱われます。「ついこの間まで学生だったから」は通用しません。このプレッシャーは初めに予想していたよりはるかに大きく、未熟さを痛感させられます。それでも私がここまで何とかやって来られているのは、周りの先生方が、生徒の助けがあるからだなと思います。歳が近いこともあり、授業中に失敗をフオー—Iしてくれたり、行事について詳しく教えてくれたり、毎日助けられてばかりで本当に良い生徒に恵まれているなと感じます。そんな素敵な生徒たちのために、少しづつでも一緒に成長していきたいと日々努力しています。



◆部活動風景◆

四月から様々な仕事をさせてもらい、今まで漠然と参加していた行事を運営する側の立場となり、多くのことを学ばせていただいたいます。部活動の引率や遠足、避難訓練、学校祭など、仕事内容だけでなく、責任や心構えについて勉強することがたくさんあります。

特に学校祭ではPTAの皆様にも協力いただき、多くの方の力で運営が実現しているのだということを実感

し、初任者としてこのような経験をさせていただけで有難く思っています。

さて、はじめに書いた私が理想とする

「生徒が信頼し自分もこんな人になりたいと思われ、生徒が自分の成長を実感できる指導のできる教師」まだまだ未熟ですが、少しでもこの理想に近づけるよう、教師として生徒の前に立てることにへの感謝を忘れず日々精進したいと思っています。



◆HRの様子◆

『第67回桜陽祭』

生徒会部長 森平 晶

今年度の桜陽祭は、雨天時判断に始まり雨天時判断に終わりました。生徒会執行部も終始やきもきさせられましたね。

第一日目、朝からあいにくの雨。生徒会本部の窓には、ティッシュで作られた何とも頼りないてるてる坊主が無数に並んでいました。それでも気合を入れたおして円陣を組み、よいよスタート！まずはオープニングパフォーマンス。書道部の皆さんの動きも板についてたもので、凛々しいです。雨で午後の仮装パレードに出られなことを想定し、パフォーマンスの審査も行いました。そして午後、悩ましい雨雲レーダーと予報でしたが、執行

部の強い思いが通じ、無事出発！吹奏楽の力強い演奏とともに進行できました。サンモールのパフォーマンス会場では、来場した多くの保護者や一般の方の前で、各クラス練習の成果を発揮することができました。



◆吹奏楽団の演奏◆

二日目、クラスステージ。スムーズな司会進行で、各クラスの工夫を凝らした発表をみんなで見ることができました。若いうち素晴らしいですね。司会

の大役を務めてくれた小林君と柴原君、お疲れ様でした。

いよいよ三日目。この日も朝から不穏な空模様。特に昼前にかけて、どんどん雨脚が強まり、雷様まで鳴ってくれた時には参りました。生徒プラザで雨に打たれた模擬店クラスとPTA屋台の皆さん、本当にお疲れ様でございました。しかしながら雨天にも関わらず多くの来場者を迎え、盛況なうちに一般公開を終えることができました。



◆桜陽祭 雨の中の模擬店◆

三年生大喜びのサプライズ、委員長の気持ちのこもった挨拶で締めくくられた閉祭式の後、雨後のグラウンドコンディションにより、条件付きで後夜祭を実施しました。準備期間中の桜陽新聞で、執行委員長が「思い出のページ」と表現していたのが、後夜祭会場のグラウンドに向かう坂道の遠くに、執行部三年生数人が並んで歩く姿、雨上りの澄んだ夕映えに反射したその絵は実に象徴的で、この先ずっと覚えていられると思いました。最後の打ち合わせで三年生から受け取ったメッセージも。

生徒による最大の行事である学校祭は、主体である生徒はもちろん、全教職員はじめ地域のの方々やPTA、同窓会など多くの人からの温かい協力を得てはじめて運営することができまします。何より運営の主軸である執行部生徒の真剣で誠実な姿勢が、

学校祭の雰囲気にも大きく影響します。今回の桜陽祭の成功は、まさに執行部の姿勢そのものだったと思います。そしてそれは二年生、一年生へと確実に引き継がれていくのだと強く思いました。



◆桜陽祭 執行部メンバー◆



◆第67回桜陽祭ポスター◆